

5区分	食料	25の施策分野	農業水利改良	事業名	県営畑地帯総合整備	
市町村名	南牧村	ふりがな 箇所名	のへやま 野辺山		工 期 (年度)	当 初 S61 ~ H7
当初事業費	4,780,000 千円		費 用 対 果 当 初	1.08	実 績 S61 ~ H16	
最終事業費	5,694,000 千円		費 効 評 価 時	1.14		
事業の目的						完了後経過年数 5年
事業化の目的						高原野菜の流通や生産活動の向上及び降雨等による湛水、湿害被害の解消のため、農道、排水路の整備を実施した。
事業等経過	当初計画内容	農道 L=27,800m 排水路 L=35,904m 暗渠排水A=54ha				
	最終事業内容	農道 L=33,226m 排水路 L=21,791m				
	変更理由	実施設計時に農業形態及び営農方法の変化による農道路線の追加及び排水路の路線見直しによる延長の減 (農道 5,426mの増、排水路 14,113mの減)				
費用対効果の算定の基礎となった要因の変化						
農道・排水路の整備により、高原野菜生産団地としての農産生産活動、農産物流通及び農村社会生活活動の基盤の確立が図れ、農業生産所得が向上している。 評価時の費用対効果は、計画変更時の数字である。						
社会経済情勢の変化						
南牧村の産業別(15才以上)就業者数は第1次産業(農業)が全体の6割近くを占めており、県下で農業従事者が減少する中、ほぼ同数の割合で推移している。(S60:1,216/2,122人=57%、H17:1,209/2,143人=56%)						
評 価 内 容					ランク	
					部	政策評価課
事業効果の発現状況(S:目的を超えた達成 A:達成した B:概ね達成 C:達成したとはいえない)						
農道の実施で農作物の集出荷所への流通経路が整い、時間短縮及び荷傷み等による品質低下が解消した。また、排水改良により湿害被害等の解消が図れ、良質な高原野菜の作付けが可能となり、安定的な営農により高い農家収益を上げている。						
A	A					
事業実施に伴う自然環境の変化(S:環境がよくなった A:影響なし B:影響あり C:影響が大きい)						
アンケート結果によると、良くなった又はやや良くなったとの回答が47%、やや悪くなったとの回答の4%を大きく上回っている。農道新設により自然環境に影響があったが、排水路整備により洗掘土砂の流出を防ぐと共に、農道舗装により粉塵被害も抑えられるなど環境は良くなっている。						
B	B					
施設の維持管理状況(S:地域の人たちの参加あり A:適切にされている B:やや不十分 C:適切にされていない)						
幹線農道は南牧村が維持管理している他、支線農道や排水路は集落毎の「農業生産組織」が年3回(春、夏、秋)清掃や草刈りを実施しており、適正に管理されている。						
A	A					
地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)						
工事の必要性、納得度、重要性、満足度について約8割以上の方から評価されている。						
A	A					
改善措置の必要性(A:改善の必要なし B:小規模な改善が必要 C:大規模な改善が必要)						
当事業としての改善措置の必要性はない。						
A	A					
事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況(A:貢献度が高い B:貢献している -:特になし)						
アンケート結果によると、9割の方が重要と考えており、農業だけでなく観光としての利便性向上や排水被害対策、自然環境保全、生活環境改善など地域発展に繋がる事業として歓迎されている。						
B	B					
部 意 見	地域の主要産業である農業を支える基盤整備は、今後とも高原野菜の生産団地として安定的な発展を図るうえで欠かせない事業である。	政 策 課 見 評 価 意 見	農産物の生産性の向上が図られ、事業の目的を達成している。			
今後の取組及び同種事業の計画・調査のあり方や評価手法の見直し等						
・畑作地域の農業振興を図るうえで重要な役割を果たしていると共に、生活環境の向上を図るうえでも一定の評価を得ている。 ・近年の温暖化の進行による局地的な豪雨に対応する更なる排水路の整備が望まれている。 ・計画に際しては、事業効果の発現が早期に図れるよう適正な事業規模を設定することが重要である。						

5区分	食料	25の施策分野	農業水利改良	事業名	県営畑地帯総合整備
市町村名	南牧村	ふりがな箇所名	のべやま野辺山		

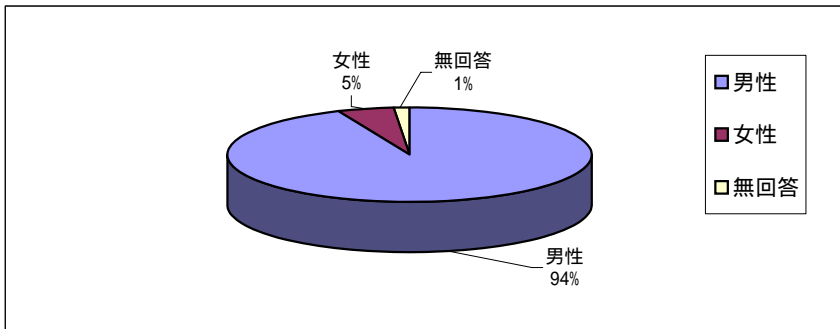
アンケートの方法及び対象

・受益地に関する5集落を対象に、実施した。
配布数171 回収数77 回収率45%

アンケート結果

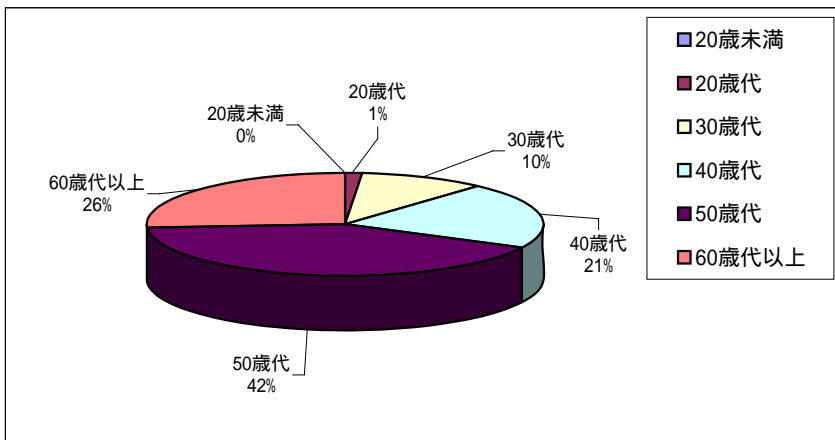
問1 性別

回答者は男性が94%を占めた。



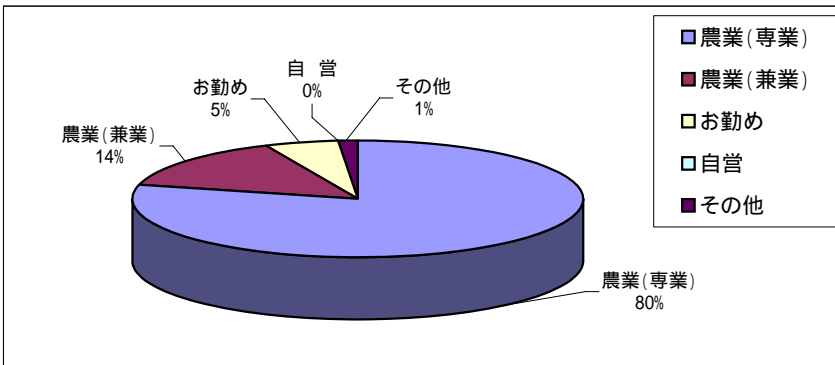
問2 年齢

42%が50歳代となった。



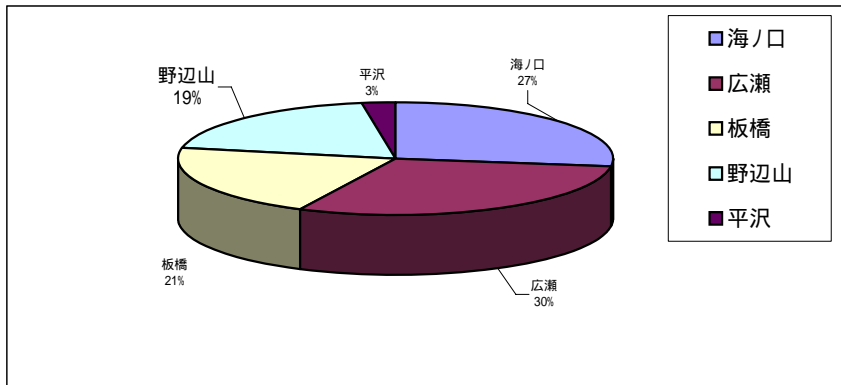
問3 職業

専業農家が全体の80%を占めた。



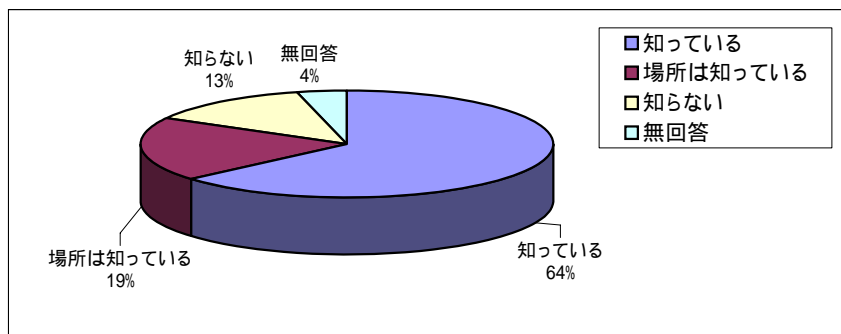
問4 居住地

平沢地域を除き、概ね同程度の回答率となった。



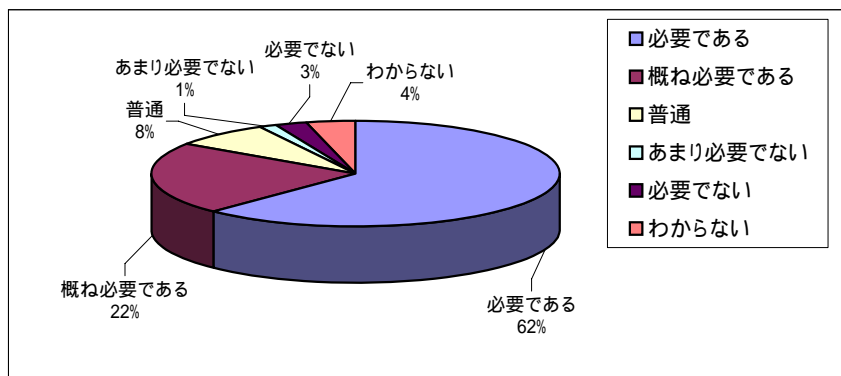
問5 工事(箇所)を知っているか

83%の回答者が知っていると回答しており、認知度は高い。



問6 - 1 実施された工事は必要と思うか

84%の回答者が必要、または概ね必要と回答。

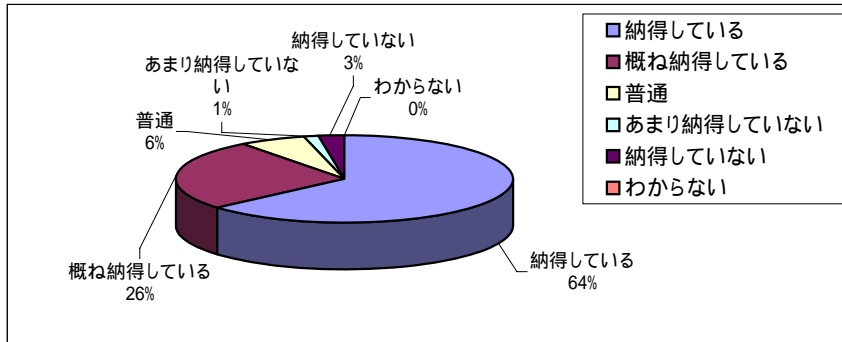


問6 - 2 必要な(必要でない)理由 主な意見

- ・農道が未整備のためトラクターやトラックの通行に支障をきたしていた。
- ・農道整備により農産物の運搬等、集出荷(施設)に支障が無くなった。
- ・農道整備によりトラクター等の通行が国道を走らず畑に行けるので安全である。
- ・大型機械が通りやすく、環境・観光にもよい。
- ・排水路は老朽化や断面不足により機能を十分は果たしていないから。
- ・排水不良は、農作物の作柄に影響があるから。
- ・農業従事者に限らずインフラ整備は地域の活性化や災害など色々な事に大切である。
- ・道路は広くなり便利になったが、スピードを出す車が増え危険になった。
- ・通行しないから。

問7 - 1 工事に税金が使用された

90%の回答者が納得、または概ね納得していると回答。

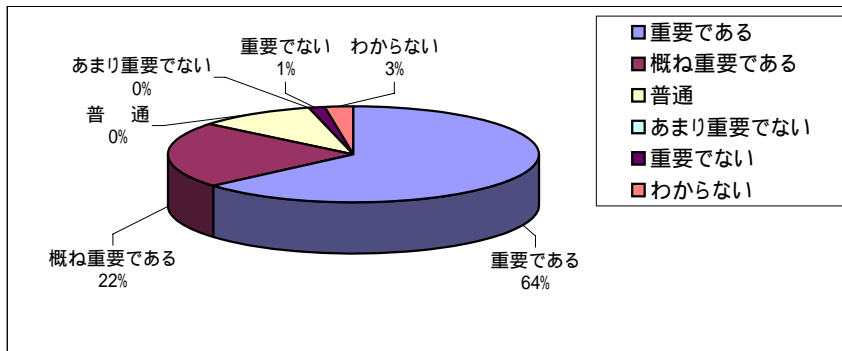


問7 - 2 納得しているか(納得していないか)理由 主な意見

- ・農道といっても生活一般道路としての利用率も高く、水路は整備する事で地域の水害予防に効果がある。
- ・消費者に安全・安定して生産できる環境整備は、当時を振り返れば大変有効な税金の使い道だった。
- ・農業整備は自給率向上にとって重要であり公共事業として行うことは重要。
- ・農地の基盤整備の様事業は、個人の力で出来るものでない。食料の安定供給のため補助事業は必要と考える。
- ・農業は国の基幹産業であるべきで、その恩恵は国全体の利益をもたらす。
- ・道路は公益性の高いものであり整備される事は納得できる。
- ・地区産業の発展が村社会全体、全員に波及すると思う。
- ・道路は社会資本といえるが、排水路はいささか疑問点もある。
- ・工事箇所を知らないので良く分からないが、この工事は不必要と思われるのに大金を投じる事に納得できない。

問8 - 1 工事は地域社会にとおて重要と思うか

86%の回答者が重要、または概ね重要であると回答。

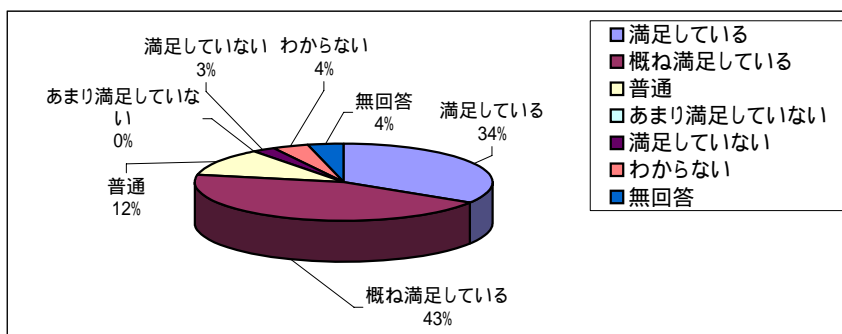


問8 - 2 重要と思う(重要と思わない)理由 主な意見

- ・農村立村の当村では地域発展に繋がる。
- ・農業、観光立村としては大変重要な事業。
- ・利便性の向上、排水被害対策として重要。
- ・農村の美観と利便で歓迎されていて重要。
- ・道路が広くなり住宅の分譲等、人口増になった。
- ・インフラ整備 = 自然破壊かの如く言う人もいるが、自然環境保全の意味からも重要な事業である。
- ・農道が美しく充実していることは、住む人々の意識や心情も豊かにする。
- ・便利になったが危険にもなった。

問9 - 1 事業の完成した結果に満足しているか

77%の回答者が満足、または概ね満足していると回答。

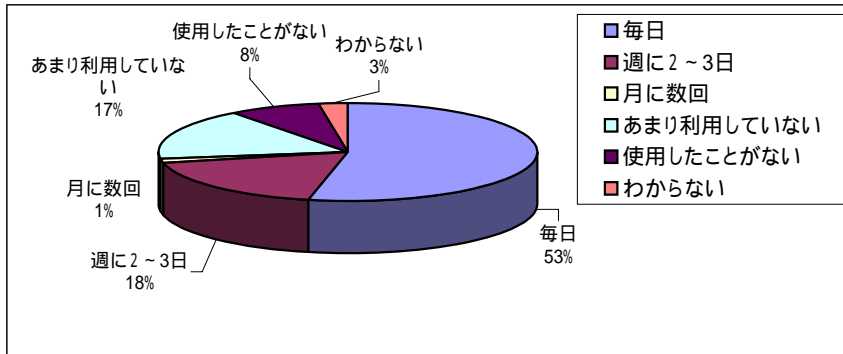


問9 - 2 満足している(満足していない)理由 主な意見

- ・地域社会、農業にとって環境が良くなり満足している。
- ・道路を利用して以前と比べ大変快適である。
- ・道路幅が広がり通行がスムーズとなり仕事の効率が良くなった。
- ・最近のゲリラ豪雨により計画当時と異なる事態が生じており、流末排水路の整備(拡幅)が更に必要である。
- ・排水路の整備を重点に引き続き実施して欲しい。
- ・未だ改修して欲しい箇所が沢山あり、排水対策が不満。
- ・一部の道路幅が不足している。

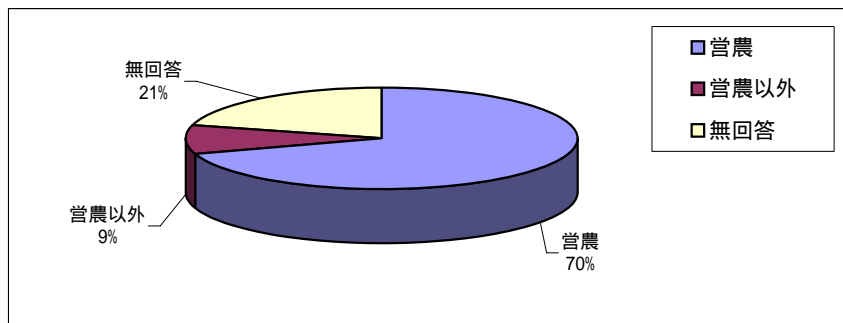
問10 - 1 農道の利用しているか

89%の回答者が利用したことがあると回答。



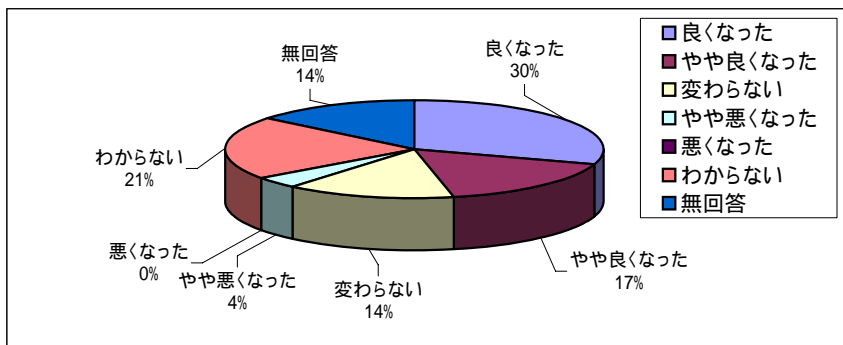
問10 - 2 利用目的は何か(利用したことがある者のみ回答)

70%の回答者が営農目的で利用と回答。



問11 - 1 事業実施により環境が変化したか

61%の回答者が、良くなった、やや良くなった、変わらないと回答。

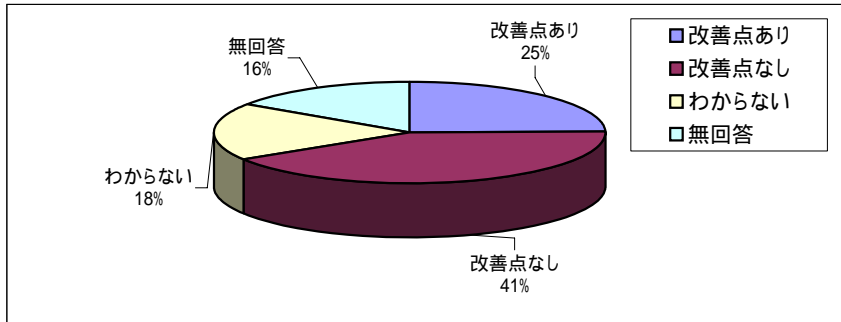


問11 - 2 環境変化について主な理由 主な意見

・局地的な大雨でも整備地区は被害が少なく、集出荷場まで短時間で農産物輸送ができ新鮮な状態で市場へ送る事が出来る。

- ・畑の排水で作柄が安定し生産増に繋がっている。農家群が明るくなった。
- ・拡幅工事なので環境に対し影響していない。
- ・景観面で農繁期での乗用車の通行が可能となった。観光客への生産地としてイメージアップとなった。
- ・水の流れが良くなり、別荘地内は自然石を使用し景観に合った工事が出来た。
- ・水環境や景観等、施工前と比べ良くなった。
- ・板橋東大橋が開通し、車がスピードを出すため危険、野菜が泥だらけ。
- ・全国何処でも同じ様な道になり、旅人や遠くに出ている人には親しみが無くなる。
- ・集中豪雨により、流末の未整備箇所の地形が大きく変化した。

問12 - 1 行われた工事について、改善した方が良いと思う点
改善点ありと回答した方の中には、 を求める意見があった。



問12 - 2 改善についての内容 主な意見

- ・道路・排水路の終末処理が必要。
- ・道路への泥水流出対策が必要(農家の問題かもしれないが)
- ・幹線道路を2車線にして欲しい。
- ・道路排水としてU字溝を設置した方が良い箇所があった。
- ・道路に水が溜まるので直して欲しい。
- ・自分の畑より道路が高く、大雨の時水が入る。水はけが悪くなる。
- ・近年のゲリラ豪雨により水路から水が溢れる。特に広瀬地区で水路幅が上流が広く下流が狭く溢れやすい。
- ・排水路の構造をもう少し考えて欲しかった。
- ・施設そのものよりも維持管理を利用者中心に草刈り等、適切に行うべきである。

問13 事業実施箇所についての意見・要望 主な意見

- ・畑地がマルチで覆われ一時的な大雨で雨水が水路に入り、考えられない状況となっている。
- ・道路整備も必要であるが、排水路がゲリラ豪雨により対応しきれていないと思う。早急な排水路の改善、断面を大きくして欲しい。
- ・畑地かんがい施設が必要。
- ・今後も再度、畑総事業のような高度な施策が採用されることを望む。
- ・舗装が完成後の年度経過等でひび割れが発生しており、国道並に修復したらどうか。
- ・立派な道路・排水路が完成しても、問題は住民(行政)が共有財産として管理して行くかが問題である。
- ・畑総事業が必要であれば、農振以外でも実施できるよう要望したい。
- ・道路(両側ガッター)片勾配により、低い畑側に水が入る。

問14 公共事業についての意見・要望 主な意見

- ・農業の基盤整備には公共投資を惜んではいけない。食料生産は今後重要な産業となる。
- ・生産、生活をより良くするには、公共事業は必要。特に野辺山の農業は県の農業にとって必要。
- ・地方では公共事業がまだまだ必要であり、地域の要望に添い今後も実施して欲しい。
- ・今後も少なからず畑総事業は必要。公共事業(畑総事業)として継続して欲しい。
- ・農道、排水路の整備により営農に大変助かった。今後も新しい事業を早く計画される事を期待したい。
- ・最近のゲリラ豪雨により排水路は徐々に整備されているが、まだまだ不十分である。
- ・一般的に公共事業の計画工期が長すぎる。
- ・U字溝工事等で造った水路が、管理が行われず土が埋まっている箇所が多い。新規分のお金を維持管理に使って欲しい。
- ・事業完了後の管理が出来ていない。(村の予算不足、認識不足)
- ・役人は受益者の意見も聞き設計に反映して欲しい。

5区分	食料	25の施策分野	農業水利改良	事業名	県営畑地帯総合整備
市町村名	南牧村	ふりがな 箇所名	のべやま 野辺山		

幹線農道

【施工前】



【施工後】



排水路

【施工前】



【施工後】

